

第 82 回 超音波研究会 報告書

去る 10 月 15 日(土)に筑波学園病院において第 82 回超音波研究会を開催しました。今回は、“症例から学ぶ”というテーマで、定期的な症例検討会を実施し各施設から 4 症例をご呈示頂きました。

1 例目は、JA とりで総合医療センターの坂和樹さんから、頚動脈ステント留置術 (CAS) 施行にあたり、その評価に用いられる頚動脈超音波検査の計測ポイントや諸注意点について解説頂きました。2 例目は、東京医科大学茨城医療センターの松下真嘉さんから、正中頸嚢胞を通し、発生の過程や舌骨と病変との関連を証明する事の重要性など検査のポイントについて解説頂きました。3 例目は、筑波学園病院の津谷啓介さんから、腸重積を来した小腸腫瘍の一例。4 例目は、取手医師会病院の大石武彦さんから、胃粘膜下腫瘍の一例についてご発表頂きました。これら 2 つの消化管疾患を通し、その見方、考え方、鑑別方法、そしてテクニカルな解説を含め日常に役立つポイントについてお二人から解説頂きました。

今回の参加者は、19 名でこぢんまりとしていたため終始和やかな雰囲気で行われました。内容も明日からの検査業務に直結できるようなもので大変有意義な時間となりました。そして、ご発表いただきました皆様大変お疲れ様でした。

次回の研究会は、年明けの 1 月 14 日につくばメディカルセンターにて、消化管エコーについて成田赤十字病院の長谷川雄一先生からご講演頂く予定です。詳細は、決まり次第、ホームページ等でご案内致しますので、是非ご参加下さい。



(文責 増田光一)